

12月15日(火) 水海道車両基地(常総市)にて

異常発生時の想定訓練を実施

鉄道関係の全部門から計57人が参加

踏切事故を想定、連絡通報体制や夜間での対応などを実践的に訓練



乗客の避難誘導



照明機材の搬入・設置

関東鉄道株式会社(本社:茨城県土浦市 取締役社長:松上英一郎)では、12月15日(火)、水海道車両基地(茨城県常総市)で異常発生時の想定訓練を実施し、鉄道関係の全部門から計57人が参加しました。この訓練は、12月10日から始まった「年末年始の輸送等に関する安全総点検」の一環として、異常時における適切かつ迅速な対応方を習得するため毎年、実施しているものです。今回は、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、外部関係者を招かず社員のみで実施しました。

今回、初めての取り組みとして、夜間の事故対応訓練(照明機材の搬入・設置)を行ったほか、SNSを活用したお客様への情報発信を内容に取り入れました。

「15時53分頃、列車が速度75km/hで走行していたところ、踏切に侵入する乗用車と衝突した。乗用車の運転者に意識は無く乗客1人が軽傷、車両前部が脱線、復旧まで長時間を要する」との想定のもと、現場長が現場に急行し、状況確認や安全確保を図り、運転司令室への報告、避難誘導、旅客対応を行う訓練や、連絡通報体制の確認、事故車両を救援する列車の運行などを実施しました。

今回の訓練の成果を活かすとともに、課題となった点については再度教育訓練を行い、引き続き、旅客輸送の安全確保と交通事故の未然防止に万全を期してまいります。

以上